



廿日市市立佐伯中学校 令和2年度

【自律】学校だより

ホームページ <http://www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/>

学校教育目標：「自信と誇りを持った生徒の育成」「みんなの笑顔があふれる居心地のいい」学校づくり！！

2月号 (No.14)

令和3年

2月26日(金)

あっという間に2月も終わり、年度の終わりが近づいてきました。草木を見てみると、芽が出たり、蕾が膨らんだり、春の訪れを感じることができます。3年生の皆さんには、残り少ない佐伯中の生活を充実したものにしてほしいと思います。選抜Ⅱや私学を受験する人は、夢の実現に向けて最後まで全力で頑張ってください。諦めず、努力を続けていけば、夢はきっと叶うと思います。

2月の学校暮会のテーマは「給食」でした。給食を通して、食べること、そして生きることを考えてほしいと思います。

2月の学校暮会「給食」

1月24日から30日は全国学校給食週間でした。全国学校給食週間は、学校給食の意義や役割についてたくさんの人に知ってもらい、これからの学校給食について考えてもらうことを目的としています。本校でも、この週間に合わせて、保健委員会による放送が行われました。

学校給食の始まりは、明治22年、山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）にある小学校で、家庭が貧しくてお弁当を持ってこられない子どもたちのために無料で食事を提供したことからと言われています。その後、全国で学校給食が実施されるようになりましたが、戦争による食糧不足で中止することになりました。戦後、栄養失調の子どもたちを救うために、外国からの援助で給食が再開されました。昭和21年12月24日に新しい学校給食が始まったことから、この日を「学校給食の日」としましたが、冬休みに入ってしまうため、1か月後の1月24日から1週間を「全国学校給食週間」とすることが決まったそうです。

現在では、食べることが困難だったころから大きく変わり、偏った栄養摂取をはじめ生活習慣病の増加など、子どもたちの健康状態が心配されることから、バランスのよい食事のお手本として、学校給食は「生きた教材」の役割を担っています。

本校の給食は自校給食で、作りたての給食をいただくことができます。本当にありがたいことです。この給食の献立を考えたり、業者の手配などを行ったりしてくれている方が栄養主幹の佐々木先生です。佐々木先生の献立表には、毎日食材に関するエピソードが添えられていてとても勉強になります。そして、献立にそって作ってくれている方が、給食技術員の岡本さんと西本さんと給食調理員の高樋さん、森脇さん、山根さん、平さん、齊藤さんです。夏の暑い日、冬の寒い日の作業は、特に大変ですが、みなさんにおいしい給食を食べてもらいたいという思いで毎日一生懸命作ってくださっています。また、2階にある給食掲示板には、毎月その月にちなんだ、折り紙を使った飾りや季節の食材の写真なども掲示してくださっています。みなさんに食べるだけでなく、食文化にも興味や関心をもってもらいたいという思いが溢れています。

今日は、佐々木先生と給食技術員や調理員さんから3年生へのメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

【佐々木先生から】

3年生の皆さん、もうすぐ卒業ですね。入学した頃は食の細かい人、好き嫌いのある人もいましたが、この3年間でずいぶん成長し、ほとんど残食のないすばらしい学年に成長したと思います。小学校から食べてきた学校給食も卒業となり、これからは自分で料理を作ったり選んだりする機会が増えてきますが、健康な心と体は毎日の食事の積み重ねによってつくられます。今まで学んだことや給食を思い出し、食べる事を大切にしてほしいと願っています。給食を食べられるのも残り1ヶ月と少しです。残さず味わって食べてください。

【給食技術員と調理員のみなさんから】

3年生の皆さん卒業まで残り少なくなりましたね。皆さんは1年生の時から給食を残さず食べてくれていました。私達にとっては、とても嬉しいことです。今年はコロナの影響で鍋給食はなくなりましたが、恒例の手作りケーキは頑張ってお作りしたいと思いますので楽しみにしててくださいね。卒業しても佐伯中学校で食べた給食の事は、いつまでも忘れないでほしいです。

心のこもった素敵なメッセージですね。ありがとうございます。3年生のみなさんにとっては、1回1回の給食がとても貴重なものになります。また、1・2年生のみなさんにとっても、同じことだと思います。温かくておいしい給食を食べることができるのは、作ってくれる方がいてのことです。多少好き嫌いがあったとしても出されたものは残さず、感謝して食べましょう。私たちの体は食べたもので、できています。食べることは生きることです。食べることを大切にしたい生き方をしたいと願っています。

出前授業を行いました！

本年度は新型コロナの影響で、6年生の皆さんに来てもらい授業を体験することができませんでした。その代わりに、中学校の先生が小学校で出向いて授業を行う「出前授業」を行うこととしました。1月には津田小へ山下先生が出向いて音楽の授業を行いました。2月には秋田先生と久保先生が出向いて、中学校と同じように、男女別で体育の授業を行いました。小学生の皆さんは、最初は緊張していましたが、少しずつ慣れてきて、楽しく授業を受けることができました。

4月からは、いよいよ中学校生活が始まります。今回の出前授業の経験を生かし、中学校生活に慣れてくださいね。皆さんの入学を待っています！



広島県教育委員会

平川教育長が訪問されました！

2月10日（水）広島県教育委員会の平川理恵教育長が本校を訪問し、すべての授業を参観されました。平川教育長は、年間を通じて、沢山の小・中・高等学校を訪問され、学校の生の様子を把握しようと努めておられます。この日も、約5分ずつですがすべての授業を参観され、生徒の学びに向う様子や生徒と先生との関わりなどを熱心に見学されました。平川教育長からは、「生徒が学びに向かっています。学習環境も行きとどいていきますね。」と褒めていただきました。ありがとうございました。



3年生へのお祝い給食！

2月15日（月）は3年生のための「お祝い給食」でした。佐伯中学校では、3年生のためだけに「鍋給食」を行う風習があります。4名で1つの鍋を食するという、給食としては大変珍しい取組で、昨年初めて体験しびっくりしました。今年は、新型コロナの影響で、残念ながら実施することができませんでしたが、給食調理員さんのご努力下、それに代わる特別メニューが用意されました。給食で、こんなに手の込んだ料理が出されるのは、佐伯中だけです。3年生の皆さん、給食調理員さんに感謝の言葉をお願いします！



1・2年生の道徳の授業参観日！

12月、3年生を対象として、道徳の授業にゲストティチャーとして介護福祉士の吉岡俊昭さん（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 介護福祉学科学科長）を講師にお招きし、介護について学習しました。今回は、1・2年生を対象として学年別に行いました。介護を通して、働く意義ややりがい、人としての生き方など沢山のことを学びました。熱く語る吉岡さんの言葉に、胸がジーンとしたり、涙が出たりする生徒も多かったと思います。心に響く道徳の授業になりました。帰ったら家族で介護について話すきっかけになればと思います。

